

高精度測位社会プロジェクトについて

平成29年7月4日

国土政策局 国土情報課

高精度測位社会プロジェクト

○ 屋内外シームレスに高精度な測位環境を活用した様々なサービスが実現できる環境づくりに向けて、実証実験等を通じ、屋内の電子地図や測位環境等の空間情報インフラの整備を推進するため、平成27年度より「高精度測位社会プロジェクト」を実施。

▼ 空間情報インフラの整備

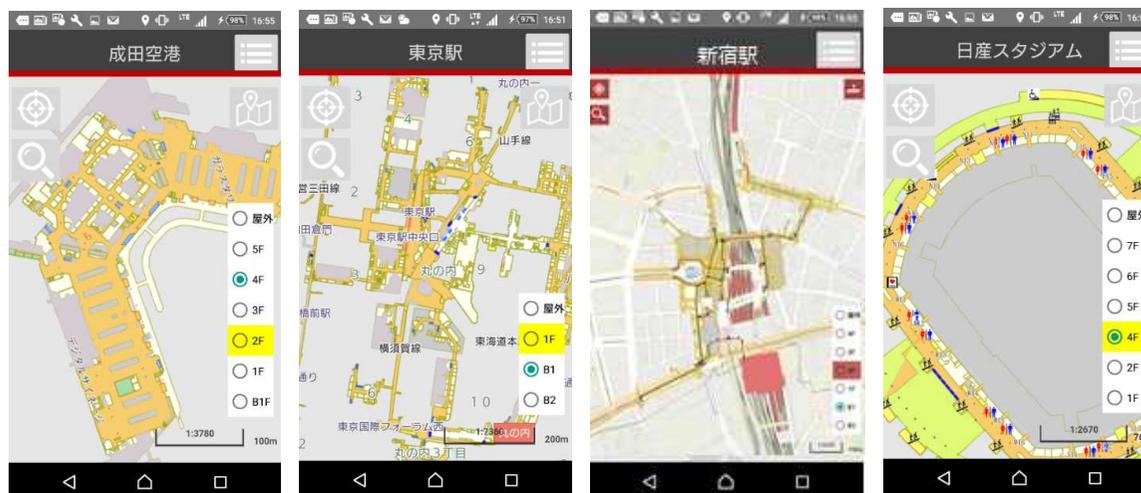
「東京駅周辺」、「新宿駅周辺」、「成田空港」、「日産スタジアム」の4カ所において「屋内電子地図」、「屋内測位環境」を整備



実証実験で設置したビーコン(例)

▼ Android、iOS端末によるナビゲーションアプリの試作・サービス実証

- 車いす利用者等向けに段差の無い/少ないルートを案内
- 日本語版、英語版の試作
- アプリストアで一般公開を行うとともに、被験者に現地で実際に使用してもらい、屋内位置情報サービスの評価を実施
- 民間のアプリベンダー(ナビタイム等)に実験環境を公開し、屋内電子地図等の評価を実施



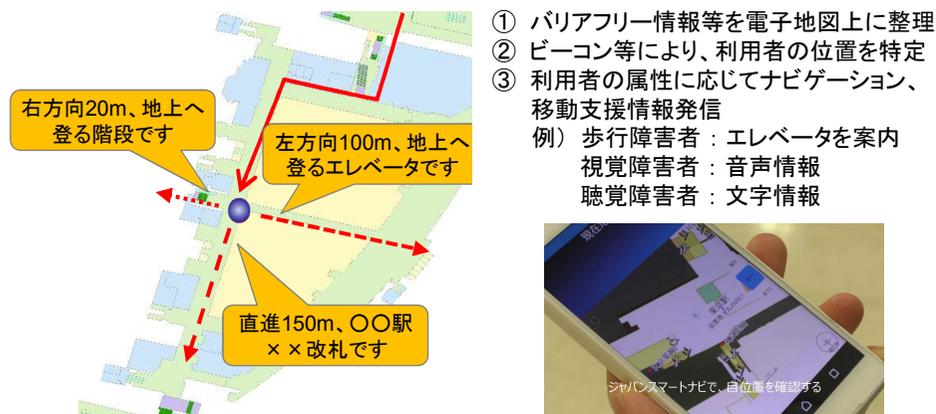
平成28年度のサービス実証箇所と実証アプリの画面

平成29年度の取組内容(イメージ)

■ 実施概要(素案)

- ・障害者向け移動支援情報提供の実証
 - ⇒ 歩行、視覚、聴覚の障害に応じた移動支援情報提供のあり方
- ・屋内外シームレスナビゲーションの実証
 - ⇒ 競技会場・会場最寄り駅を中心とするシームレスナビ実証
- ・民間サービス事業者による実証等をさらに推進
 - ⇒ 今年度までに屋内地図・測位環境を整備した4エリアを継続
- ・防災、消防活動等への活用検討
 - ⇒ 公共空間におけるエリア拡大を実施するための目的・テーマ
- ・推進体制の立ち上げ
 - ⇒ 屋内地図を整備・更新・流通させる推進体制をG空間情報センター内に立ち上げ

屋内測位環境を活用した障害者向け移動支援情報提供の実証

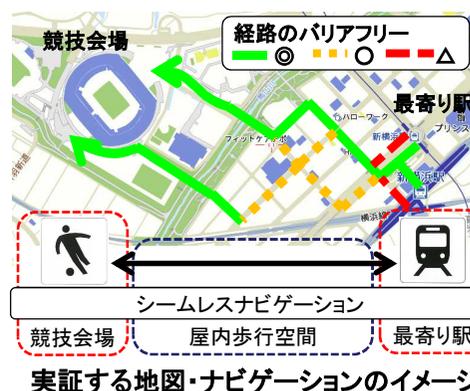


実証する情報提供方法のイメージ

- ① バリアフリー情報等を電子地図上に整理
 - ② ビーコン等により、利用者の位置を特定
 - ③ 利用者の属性に応じてナビゲーション、移動支援情報発信
- 例) 歩行障害者：エレベータを案内
 視覚障害者：音声情報
 聴覚障害者：文字情報

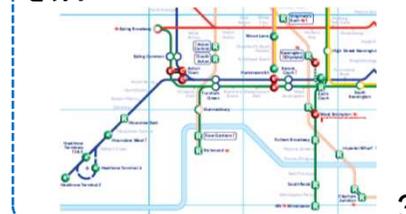
関係団体等と連携し、会場最寄り駅から競技会場までの屋内外シームレスなナビゲーションをモデルとして実証

屋内・屋外において共通仕様で歩行者用ネットワークを作成し、民間サービス提供に必要な仕様について検討を実施。その際は、平成28年度に改定を行った「歩行空間ネットワークデータ等整備仕様案」で作成予定。



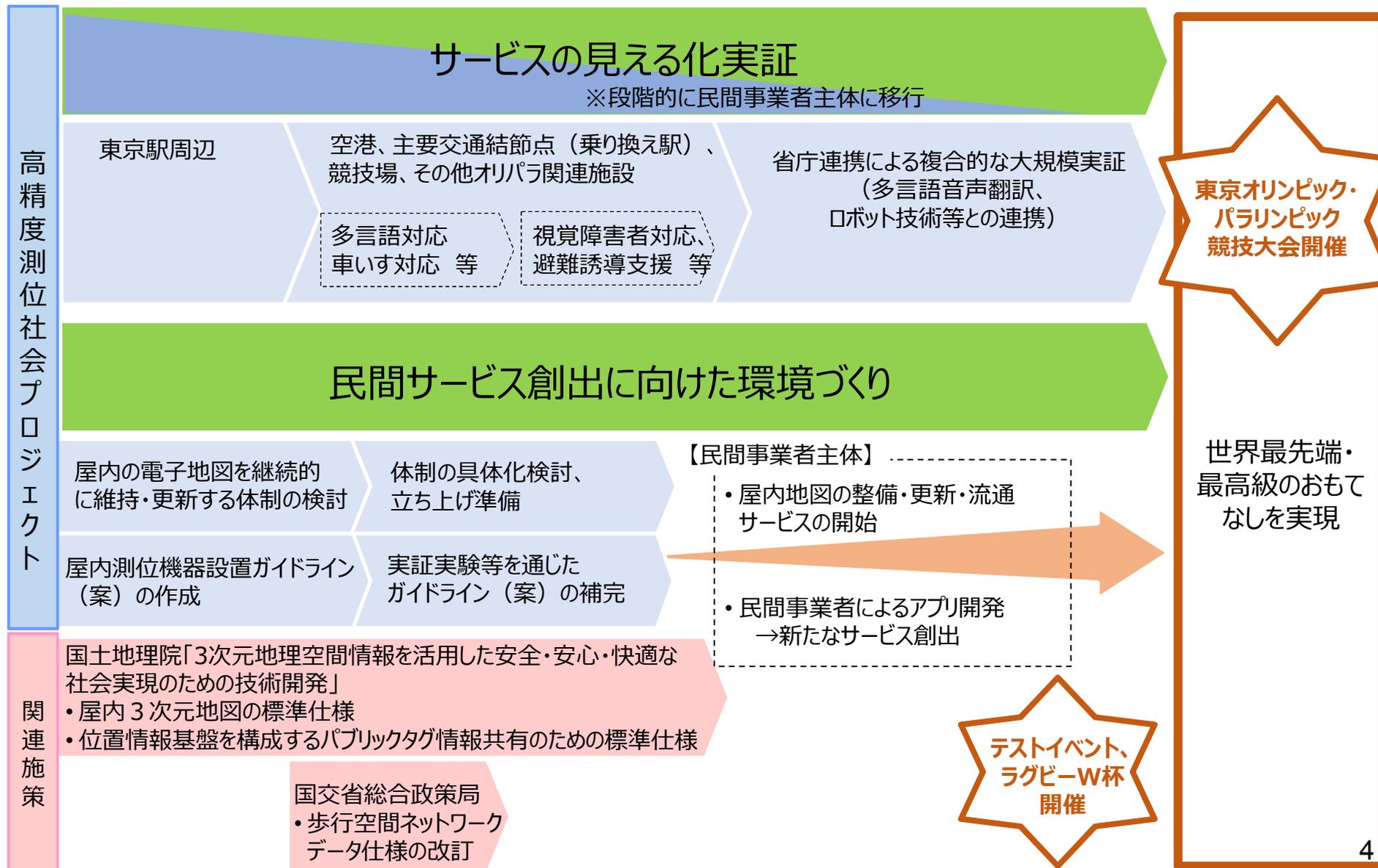
実証する地図・ナビゲーションのイメージ

【参考：バリアフリーマップの例】
 Step free guide map (TfL, London)
 2012年ロンドン五輪の際、地下鉄のプラットフォーム⇄列車間の「幅」、「段差」について、3段階でアクセスし易さを明示



2020年に向けたロードマップ(案)

平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)	平成32年度 (2020年度)
--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------



○ユニバーサル社会の構築に向け、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を当面の目標とし、屋内外シームレスな電子地図や屋内測位環境等の空間情報インフラの整備・活用、及び移動に資するデータのオープンデータ化等を推進し、民間事業者等が多様なサービスを提供できる環境づくりを推進する。

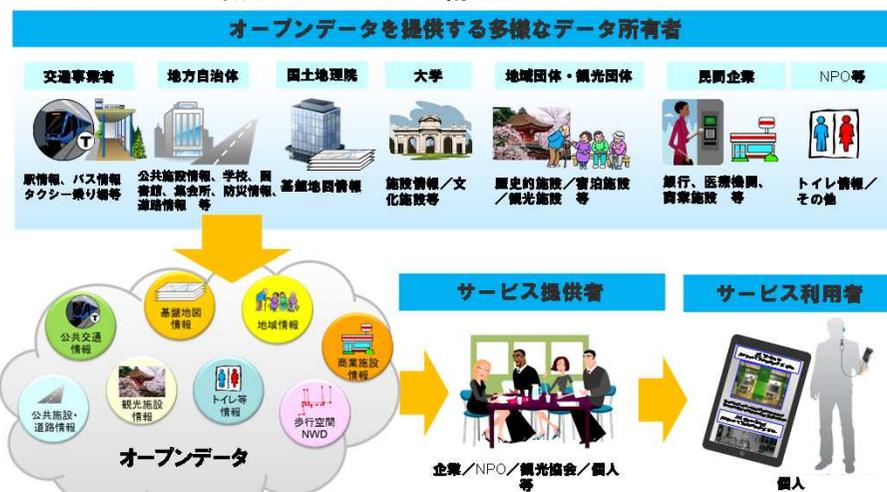
○空間情報インフラ(屋内の電子地図、測位環境等)の整備・管理の仕組み等の検討

<空間情報インフラ整備のイメージ>



○歩行者移動支援に資する各種データのオープンデータ化

<オープンデータの活用によるサービス創出のイメージ>



歩行者移動支援サービスのイメージ

屋内外問わず、自分の現在位置、目的地までの経路等の情報が詳細に入手可能

空港



主要駅



観光地等

多言語で場所に
応じた観光案内

競技会場

競技会場の自分の
座席まで案内

例えば、障害者や高齢者、ベビーカー等が楽に移動できる段差の少ない経路を案内

